

税理士の ひとりごと

No. 129

忘れてはいけないこと

税理士 齋藤明

ネットニュースのヘッドラインが「円安が一段と加速。一時156円台に値下がりし約34年前の水準」と報じていました。確かに私も海外に行くたび「何でも高いな」と辟易させられてしまうのです。

しかしそれは円安だけが原因なのでなく、日本のデフレもその大きな要因となっています。例えばハワイに行くとコーラを買ったとしましょう。その時の為替が1ドル100円でコーラの価格が1ドルでした。その後円安が進行し1ドルが150円になったとすると、私たちはハワイでコーラを飲む時に150円支払うこととなります。しかも日本はデフレでモノの値段が上がらないのに、アメリカはインフレで物価が上がっているのです。コーラの値段が2ドルになってしまいました。そうすると私たち日本人はコーラを買うのに日本円で300円支払わなくてはなりません。つまり私たちは海外に行

くと日本の3倍の値段で買い物をしてはならないということです。今まさにアメリカに行つてラーメンを食べると20ドルくらいしていますから、ラーメン一杯の値段は3000円近い値段ということになり、私たちのラーメン1杯1000円」という肌感覚のちよūdō3倍ということになってしまふというわけです。

実際に私も海外を彷徨い歩いていると、え？ビールが1杯2000円？え？このポロイ宿が一泊3万円？と、そんなショックの連続で段々と気分が凹み、一気にケチケチ旅行者へと変容していくのです。しかし人間には「忘れる」というスバラしい能力が備わっています。それは本能的にある程度「忘れる」ということができないと、例えば身内や親友などの死に接した時の悲しみや、怪我をした時の痛みなどをつまでも引きずったまま生きていけないので、脳が自動的に「都合の悪いこ